（本號八面）（明治廿五年三月十一日遞信省認可）明治二十八年十二月二十日　第四千四百六十八號　（定價金二錢五厘）

時事新報

時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり

明治廿八年十二月二十日金曜日
舊暦乙未十一月五日（辛、丑）
日出午前六時四十九分
日入午後四時二十九分
月出午前九時四十八分
月入午後八時十五分
滿潮午前七時四十七分
午後八時六分
（西暦一千八百九十五年）
年始より三百五十四日
年末まで十一日

時事新報には本號詳細なる商況物價の報告あり

時事新報

臺灣經營の第一着

臺灣の亂も既に平ぎたれば其筋に於ては今後の經營に付て協議中ならん一說に臺灣は所に據りて文野の相違著るしく到底畫一の政治を行ひ難ければ全嶋を三段に區別し其最も開化したる部分を假に文明界と名けて民政を施し半ば開けたる所は半開地として軍政組織と爲し其餘の地方は野蠻界として征服主義を以て御す可しと云ふ臺北、臺南の如き基隆、打狗、安平の如き稍々人間社會の風を成したる地方と未だ全く王化に浴せざる野蠻地方とは同一の筆法を以て治む可きに非ざれば行政の基礎を右の如く定むるは時の必要に應じたるものとして之を贊成すると同時に我輩の特に當局者に所望する所は交通の便を開くの一事なり凡そ交通と文化とは離る可らざる關係のものにして交通の便、一歩を進むれば文化も亦一歩を進む可し海港の濱、河川沿岸の古より開化したるも交通の爲めにして十九世紀の文明も交通の賜なり左ればこそ今日西洋人が地を拓き民を植うるに先づ道を開き鐵道を通じ電線を架するを以て第一の要務とする次第にして文化も道なき所は歩む能はず汽車なき地には進み難きものなれば臺灣の拓植も交通を以て第一の要義とせざる可らず特に兵亂は一旦鎭定したるも人民は概して頑愚にして去就常なきのみならず山賊は要害に立籠て良民を苦しめ蠻類は山林に割據して王化に服はざる同嶋の如き地方に於ては警電一たび到て守兵直ちに出陣するの便なくんば生命財產も安全を得ず爭でか文化の普及を期す可けんや又前に云ふ如く臺灣の行政組織を區別して文明、半開、野蠻の三段に標準を定むるも是れとて永久の計には非ず次第に蠻地を開て半開地に操込み半開地を導て文明界に編入すること恰も北米合衆國が漸次、州外地を州に組入たるが如くするの趣意ならん然るに今この事を成さんとするには何は扨置き先づ道路を開て各地を聯ね往來交通を自由にせざれば政治の仕方は如何に巧なるも山河に隔てられ谿谷に妨げられ文化四達の道なくして拓植の効、容易に奏す可らず左れば彼の內地の交通を便利にすると共に之に渡航するの法をも容易くして本國民を誘はざる可らず火事場に彌次馬の飛び出すは徒に混雜を增すのみにして事に益なし兵亂の最中に臺灣渡航を制限したるは必ずしも理由なきに非ざれども亂既に平ぎたる上は一日も速に渡航を自由にして嶋の隅々にまで日本人を植付けざる可らず內地には奮發して彼の新版圖に移住し又は往來して利を興さんと欲するもの少なからざる其上に目下始めて干戈を收め全嶋の情狀恰も暴風後の荒野の如くにして日本人の拓植を待つこと切なるに最早や運行遮斷の要はある可らず天然の[illegible]上の實藏を空うして良田に雜草の蔓延を許すは[illegible]の人民に乏しきが故のみ今の渡航を制限するは[illegible]の[illegible]を制限するものにして一日の制限は國家一日の不利と云ふ可し單に農民のみならず現在臺灣に居留する者は軍人も人夫も將た人民も萬事不自由勝にして物價甚だ不廉なるに法の爲めに商人等の渡航も自由ならずとあれば彼等の利す可き利を失ふのみならず絶嶋の同胞を苦しむるものにして双方の不利不便と云ふ可し何れの點より見るも渡航の制限は斷然こゝに解除して農業に商業に一日も速に同嶋をして日本化せしめんこと我輩の切望する所なり

雜報

○獨逸銃砲商詐僞の發覺

支那ガゼットの社說に云く威海衛攻落の當時まで同處に居殘りたる僅の外國人は軍事に精通せる日本人が東西砲臺に備へ付けありし巨砲を本國へ積歸りて日本內海の警護に用ひんとはせず却て破壞せんと決定せしを觀て愕然として呆るゝ許りなりし是等の大砲は其價蓋し何億兩なる可く、小は、ノルデンフェルト砲より大は口徑三十サンチメートルの獨逸製巨砲に至るまで輕重有らゆる種類のものを籠め少しも敵彈の爲めに疵を被らざりしものすら少からず總べての砲臺の砲は孰れも皆、最新の鑄造年號を附けたり西砲臺の諸砲は一月の末より二月一日及び二日の包圍攻擊の時、一發の應戰だにせず然るに東砲臺の諸砲は日本及び支那の砲術師共にこれを用ひたり日嶋の九吋アームストロング隱見砲は僅か二月七日まで又劉公嶋西端砲臺の諸砲は二月十一日まで發砲したりと覺ゆ故に日本人が高價なる獨逸製の大砲を破壞し始めたるや之を觀て驚きし者は啻に外國人のみならず日本士官にても事の祕密を知らざりし者は亦一驚を喫したり然れども今や其理由を明にするを得たり威海衛攻擊の際不思議にも巨砲の聲なかりしも宜なり獨逸製の物は要所に缺點多く八十七年より九十三年の年號を打ちたりと雖も其實七十七年の古鐵砲なりし商賣の手品も爰に至て極まれりと云ふ可し左ればこそ威海衛に在りし流石の獨逸砲術大家連も戰爭に先立て逃出したる譯なれ北京ガゼットの記事に據れば支那帝は彼の支那を助けんが爲めに此頃露佛に連合せし「帝の友人」が友情の正體に感付きて逆鱗一方ならず斯の大仕掛の詐僞を知り怒氣勃然たりと云ふ可し其處で獨逸は其奸商等殊に銃砲商のペテンの爲めに折角前途多望の支那に踏込みたる脚を拂はれし不覺を繕はんとて態こそフォン、ブラント氏の如き老巧なる外交家を派遣したるなれ之に就ても英國の銃砲は必ず價だけの効力ありて現にアームストロングは今日、日清の市場に名聲を全うせり云々

○第二師團特設部隊の凱旋

野戰第二師團は尙は臺灣に駐屯して警備の任務に當り居る事なれども更に臨時に該地へ追發したる特設部隊即ち糧食縱列、輜重監視隊、野戰砲廠、砲廠監視隊、野戰工兵廠、衛生隊衛生豫備員、衛生豫備廠、患者輸送部等は最早該地に駐在せしむるの必要無きを以て孰れも今度凱旋する事と爲り漸次彼の地を出發して歸國中なりと云ふ

○劉雨田氏

は本年四月大山大將に隨ひて我邦に渡來し爾來引續き去る十月迄府下に在りしが當初我邦に來遊の目的は大山大將の勸めに依り兎も角も一旦日本に赴きて其實況を目擊せんものとて固より永住の目的あらざりしなり然るに同大將の眷顧を受けて陸軍省雇員ともなり知己も次第に多く慣るゝに從て我邦の文明又は風俗人情の優美本國支那とは全く趣を異にするを知り愛着の念ます〳〵深く殊に自國とは云ひ今や四隣恰も敵地に等しき本國に兩親初め妻子一族を置き永く別離するは如何にも心配なれば一日も早く家族を我邦に引連れ來るべしとて大山大將にも相談の上去る十月歸國し今回は愈々我邦に永住の目的にて兩親妻子四名及び親戚なる閻傳英の家族を纏め前號に記せし如く去る十五日着京し目下四谷區永住町十九番地の寓所に一家九人閻傳英と共に同居するよし劉氏は固より金州地方の一豪家なれば所有の土地家屋財產等も少からず夫等の始末方に付ては大山大將も夫々心配せし由なれども氏の決心堅固にして敢て深く土地財產等のことを意に介せず止むを得ざれば悉皆捨つるも可なりとて我邦に歸化の一念動かす可らず左れば鄕里に留まること僅かに二十餘日土地財產の幾分を親戚知己に分與し家屋を總拂ひて匆々家族を引纏め再び渡來の途に就きたりと云ふ尤も土地財產の處分に就ては在金州なる佐久間中將深く事情を察して氣の毒に思ひ何れ支那當局の官吏に談じて然るべく處置せんとのことなりしかば氏は大に喜び右の處分を一切同中將に委賴し來りたるよし或は氏が最初の目的組齬して事今日に至りたる失望如何を想像するものあるべしと雖も氏は敢て甚しく失望せず抑も氏が最初我軍に投じて一方ならず盡力せしは決して自家の利害よりして遼東半嶋の永く日本の領たらん事を信じたるが爲には非ず全く支那軍の不紀律亂暴なるに反し我軍の紀律嚴肅なるを見て其優劣を識認し延て自國を厭ひ我邦を敬慕するの念慮を生じ當時旣に決心を爲したるは氏を知るものゝ明に認むる處にして大山大將の如きは疾に氏の精神を了し厚く眷遇するよし左れば今後氏の後に續いて彼地より我邦に歸化するもの猶は少からず是等は悉く東京に住せしむると能はざるべきも劉氏のみは府下に永住する考なりと又氏は着京後僅に二三日を經過せしのみなれば未だ一身の方向定まらざれども追ては大山大將を始め知己の人々とも相談の上決定する考なりと云

○世界諸國鐵類產出及消費高

獨逸鐵鋼業組合書記長レンッシュ氏は千八百九十四年間に二十六箇國即ち殆ど總ての世界諸國より輸出し幷に右等諸國へ輸入したる鐵、鐵製品、鋼製品及び機械等の斤量を調查せり今其概要を表示すれば

	生鐵の一人に對する產出斤量（斤）	鐵消費斤量の一人に對する割合（斤）
獨逸	一〇五、五	七三、〇
佛蘭西	五三、三	四四、一
澳匈國	二三、一	二七、三
白耳義	二二四、八	六三、一
伊太利	〇、七	一一、九
露西亞	九、九	一四、八
瑞西	〇、三	八二、七
北米	九八、一	九九、〇

英國の一人に對する生鐵產出斤量は百九十二斤、[illegible]は九十二斤なれども此二國の機械等に關しては代價を以て其結果を示したれば表示し難しと云ふ

○大手俱樂部の交渉

各派と交涉する爲めに大石[illegible]右衞門の四氏を委

○日本硫酸製造會社

井長平二氏其他の發起に（資本金三十五萬圓）は此程創業總會を開き定款其を爲せしに取締役には片平、都築溫太郎、日野九郎太郎、萬野禰七、須賀磯八

○茶業大會

全國茶於て關東茶業者の大會は

○各鐵道收入旬報

鐵道の收入は左の如しと

社名	客車收入
九州	一七、二四六、四八
關西	八、三五三、七三

○本場所の人氣を

組合を異にせしと雙方本小錦と大戶平が土俵に顏は爲りぬ[illegible]兩力士が本場て以來の勝負は相半し互る出合ひは實に晴れの勝に元氣好く一月の本場所太鼓の響かぬ前より互にする位にて兩力士が人氣剛勢のものなり今度靖國日にて西の大關たる大砲日に大戶平、二日目に谷汐と味方打ちの取組みを年寄どもが兩力士の人氣へに出でしものなりと

○積雪被害

新潟縣二日午後積雪の爲に民家

○韓・山・

朴泳孝家族

朴元陽氏凶

愛所に明治十七年の[illegible]威望中外に洽く天[illegible]此人んとまで志士に推されと爲りを尋ぬるに朴姓はり累朝歷仕の名族にしてく文武兩班の手本として宮の御覺も常に目出度は幼少の時より學を好み深奧を學びたれば夙にに[illegible]きて知るも知ら朴氏は之を以て身のても又才藝を以て出仕りて古人を友に當世を尋ぬる[illegible]朝鮮の國政は擧び大臣あれども無き初より大院君は攝政にれば朝廷の沙汰を左右爪の上を[illegible]に等しき